

いちりづかあと 一里塚跡

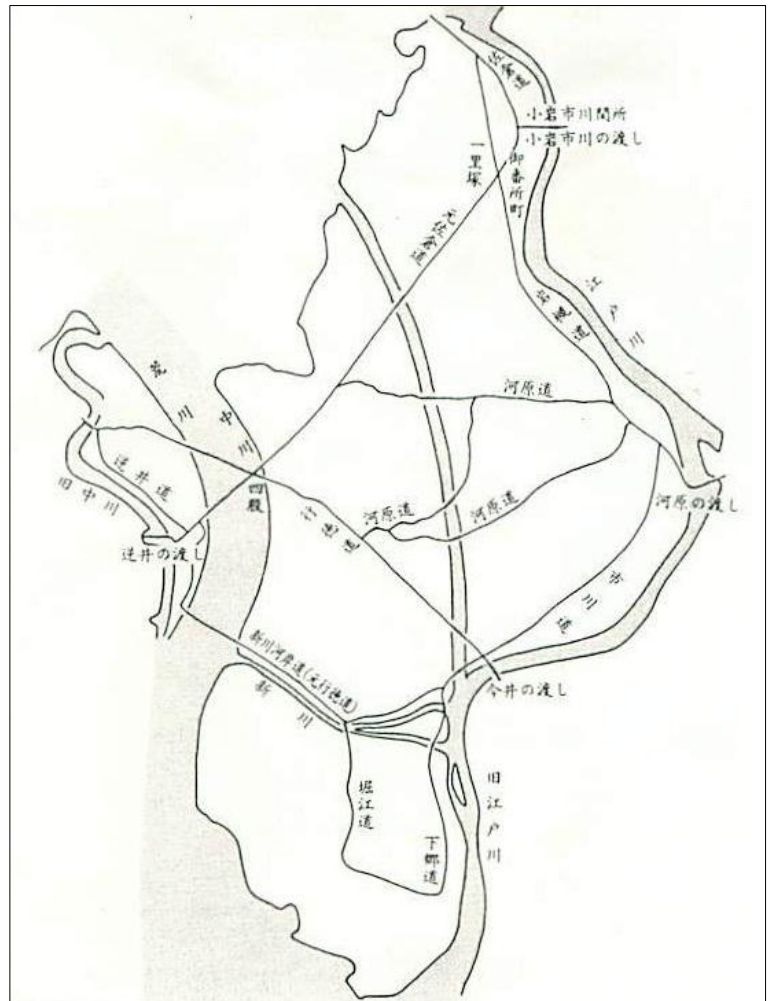
一里塚とは、^り里(約4km)を単位とした距離を、旅行者たちの目印として表わすために設置した塚のことをいいます。^{けいちょう}慶長9年(1604)江戸幕府の指令により、全国の主要な街道に一里塚の設置がはじまりました。

江戸の中心地である日本橋を起点として、主要な街道の側に一里(約4km)ごとに塚が築られました。塚の大きさは五間^{けん}(約9m)四方、高さ一丈^{じょう}(約1.7m)程であり、塚の上や側には目印となる松や榎^{えのき}などの丈夫な木が植えられ、木陰は旅人たちの休息場所ともなりました。

しかし、明治以降、敷地の民間への払い下げや道路拡張によってその大部分は取り壊されました。

小岩の一里塚

小岩には二か所の一里塚があったとされています。一つは東小岩六丁



江戸時代の主要な街道(川は現在のもの)

目の千葉街道沿い(総武線のガード南側)で、^{いわつきみち}岩槻道との分岐点にありました。「^{みとさくらどうぶんげんのべえず}水戸佐倉道分間延絵図」(文化4年)では、この位置は^{いよだ}伊予田村であり、「^{さかさいみち}元佐倉通り逆井道」両側の一里塚として描かれています。また、『^{しんべんむさしふどきこう}新編武蔵風土記稿』(文化・文政期)の「伊予田村」では「元佐倉道にあり、塚上の榎を御所榎といふ」と記されています。

この一里塚は、昭和中頃までは須賀神社の境内でした。小高い丘のようになっており、一里塚の名残をとどめていました。昭和39年(1964)6月頃、須賀神社は北野神社(北小岩三丁目)に^{ごうし}合祀され、一里塚の跡には民家が建てられました。現在「一里塚」は、交差点とバス停留所の名前として残るだけとなりました。

もう一つは小岩田村にありました。『^{かさいし}葛西志』(文政4年)に「一里塚、江戸川堤の側にあり、^{せんじゅじゆく}千住宿より二里目の一里塚なりという。此辺の一里塚も慶長年間(1596~1614)、^{ほんださだゆう}本多佐太夫、^{ながたやえもん}永田弥右衛門、^{おおかつべえ}太田勝兵衛等が奉行して築きしなるべし」と記されています。前記の「水戸佐倉道分間延絵図」にも描かれています。詳細は分かりません。

西小松川の一里塚

小松川を経て、小岩に達する元佐倉道の一里塚については、『葛西志』の「西小松川村」の項に「一里塚、^{ごぶいちぼし}五分一橋と^{さかいぼし}境橋の中ほどにあり、日本橋より、二里目の塚なり」と記されています。

現在はこの一里塚の跡はまったく遺されておらず、位置も不明です。



小岩の一里塚(昭和27年頃)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)